

令和3年度 各務原市立中央中学校 学校関係者評価委員会

【学校関係者評価委員】

- | | | | |
|----------------|---------|--------------|----------|
| ・民生委員児童委員協議会会長 | 磯野 満 様 | ・鵜二小校区主任児童委員 | 堀江 千草 様 |
| ・陵南小校区主任児童委員 | 伊藤 智恵 様 | ・中央小校区主任児童委員 | 山田 真紀 様 |
| ・各務原高等学校長 | 細井 恒樹 様 | ・岐阜各務野高等学校長 | 乙津 真由美 様 |
| ・中央中 PTA 会長 | 堀 雅彦 様 | | |

【令和3年度自己評価についてのご意見、ご助言等】

- ◇中学生は、子どもから大人への成長過程であり、中1から中3へ行くにしたがい「当てはまる」を増やし、卒業時にいかに向上させてあげるかが重要である。
- ◇生徒アンケートについて、3年生の学習に対する考え、姿勢、取り組みの「当てはまる」の回答の割合が高く、向上心、やる気、モチベーションが高いと感じた。
- ◇生徒アンケートの「仲間のよさを認め、大切にすることができた」が増えていてよい。また、「自分にはよいところがある」は、やはり他の項目に比べ低いですが、それでも前年よりも上がっているのは良かった。
- ◇生徒アンケートについて、概ねどの項目についても9割を超える肯定的な評価をしていることは、保護者同様に中学校での生活の満足度が高く、安定した生活が送れているものと思われる。上級生の方が、数値が高くなっているのも、人間性を含め、成長の証と考えられる。
- ◇多くの項目で1年生から3年生にかけて「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が増え、成長の様子がうかがえる。学年が上がるにつれ割合がアップすることは学校生活が充実しているためで、日頃の先生方のご指導によって教育活動が円滑に行われていることの表れだと思う。
- ◇中学校や高校から生徒さんが小学校にきてあいさつ運動を行い、明るく大きな声であいさつをしてくれた。「前とは違う」と感じた。
- ◇生徒アンケートと職員による自己評価に相違がある（職員よりも生徒の評価が低い傾向）。職員の思いが生徒に伝わっておらず、アンケートの項目以外に家庭内、生徒間、将来への不安、地域や環境などに問題があると思う。
- ◇「学校へ行くことが楽しい」の生徒の割合が半分以下で、保護者も半分程度。心の不調、体の不調など、コロナ禍で様々な不安を感じて、ストレス要因になっていると思う。
- ◇アンケートについて、分析も丁寧になされ、課題についても適切に認識しているので、来年度の教育活動に活かしていただき、コロナ禍に負けない生徒を育てていただきたい。
- ◇自己評価について、昨年度と比較し、先生の「当てはまる」より「どちらかといえば当てはまる」が増えているのが残念である。
- ◇民生委員さんから、登下校の自転車の乗り方が危ないとの指摘があった。
- ◇令和4年度の学校経営構想について、これからの時代を生きていく子供たちにエールを送る意味もあり、「たくましさ」の育成は重要なことだと思う。心身の強さ、課題解決能力、コミュニケーション能力と様々なことにつながるものであり、そんな生徒の育成に中央中の先生やPTAの皆さんのお力を注いでいただけたら素晴らしいと思う。
- ◇生徒アンケートについて、前年度に比べ上昇傾向にあり、どのような事が結果につながったかを把握して、今後に生かせる仕組みがあるとよい。自己評価についても、先生方の「どちらかといえば当てはまる」の割合が多いのが気になった。「当てはまる」にならない要因を調査するとよいと思った。

【令和4年度に向けて】

- ◆コロナ禍2年目における学校運営にあたり、活動を制限せざるを得ない場面が多々ある中、生徒の自律力を高めるべく、特に「主体的で対話的な深い学びのある授業」、「生徒の主体的活動」、「人権に関わる認識力や行動力」に重点を置いて取り組んだ。今後も継続して取り組んでいく。
- ◆生徒間でお互いのよさを見つけ合い、伝え合う活動を様々な場面で位置づけてきた。すべての活動の根底に「仲間のよさ」に目を向ける視点をいれてきたことが、生徒の自己肯定感の高揚につながってきたと思われる。また、このことは、同時に学級集団づくり(一人一人の所属感)にも影響していると考えられる。今後も、一層仲間のよさに目を向けられるような活動や指導をしていく。
- ◆生徒評価および保護者評価の両者において、「自治的な活動(項目5)」の A+B の割合が下降していることから、コロナの影響により特に生徒会の活動に制限等があったことが背景にあると考えられる。今後もコロナの影響が続くことも想定しながら、時間や活動の制限がかかる中であっても、生徒に考えさせ、自分達の手でやりきる場や体験を少しでも多く積み重ねていく。
- ◆「自治的な活動(項目5)」の A+B の割合は下降したが、「学級集団づくり(項目6)」における生徒評価は上昇している。学級において、みんなで協力し、何かをやり遂げ、嬉しかったと感じた生徒の割合が増えたことは、どの学級も仲間のよさを大切にされた学級経営がなされていると考えられる。今後も、日常生活の中で仲間と協力して活動し、仲間のよさを見つめられるような学級集団づくりに努める。
- ◆「いじめ・問題行動の防止(項目8)」「規範意識(項目9)」「タブレット活用(項目10)」は、保護者より生徒の評価が高く、学校の取組や生徒の様子が十分に保護者に伝わっていないことも考えられるため、学校から発信する情報量を増やし、丁寧に保護者に伝えていく。
- ◆「学校が楽しい(項目12)」は、保護者より生徒の評価が低く、保護者が思っている以上に生徒は悩み等を抱えている可能性が考えられる。教育相談を充実させるとともに、保護者との連携を一層重視していく。